

平成29年度 習志野市の財務書類

1

一般会計貸借対照表(バランスシート)

資産と負債、その差額である純資産を表しています。

- 固定負債 地方債、退職給付引当金など
546億3千万円
- 流動負債 未払金など
64億2千万円



市役所

事業用資産とは、市が事業を行うための資産のことです。



藤崎森林公園

インフラ資産とは、道路、公園など、市民の社会生活の基盤となる資産のことです。

資産の部
4,023億0千万円
行政サービスのために市が保有している資産の総額

- 固定資産
事業用資産、
インフラ資産など
3,925億1千万円
- 流動資産
現金預金・未収金など
97億9千万円
(うち、現金預金36億4千万円)

資産計 4,023億0千万円

負債の部
610億5千万円
これから先、支払う義務のある金額
将来世代の負担

純資産の部
3,412億5千万円
資産の取得のために、
今までの世代が支払ってきた金額

負債・純資産計 4,023億0千万円



芝園清掃工場

地方債とは、公共施設等整備のためにした「借金」です。平成29年度は芝園清掃工場延命化対策などのために、新たに借入れを行いました。



白鷺園

市のさまざまな資産は、市民の皆さんが負担してきた税金などでつくりられています。

平成29年度末現在の本市の資産総額は4,023億円、負債総額は610億5千万円で、資産総額から負債総額を差し引いた純資産は3,412億5千万円となりました。

2 一般会計行政コスト計算書

1年間の行政サービス提供にかかる費用と使用料などで得られた収入を比較したものです。



各種証明書の発行事業

経常費用+臨時損失 = 総コスト
500億1千万円

経常費用

- 人にかかるコスト
職員の給与・退職手当等
129億0千万円
- 物にかかるコスト
物品購入、光熱水費、施設等の修繕費、
減価償却費等
149億2千万円
- 給付にかかるコスト等
社会保障給付、各種団体への補助金等
208億6千万円

臨時損失 災害復旧事業費、資産売却損
13億4千万円



児童手当支給事業

経常収益
+
臨時利益

32億9千万円

行政サービスの利用
で市民のみなさんが
直接負担する施設使
用料、手数料、保険料
や資産の売却益等

純行政コスト

467億2千万円

総コスト(経常費用と
臨時損失)から経常
収益と臨時利益を差
し引いた純粋な行政
コスト



公民館の管理・運営



粗大ごみの回収事業

統一的な基準では税金は経常収益の中には含まれていません。
これは、税金を市民からの拠出(出資金)として考えているためです。
税金は「純資産変動計算書」に計上し、計算されます。

3

一般会計純資産変動計算書

純資産が1年間でどのような理由で増減したかを表しています。

平成28年度末 純資産残高 3,409億1千万円

本年度純資産変動高(a)+(b)+(c)
3億4千万円

- 純行政コスト(a) △467億2千万円
- 財源の調達(b) 460億9千万円
税込・国や県からの補助金等
- 固定資産等の変動(c) 9億7千万円
公共資産の増減等

平成29年度末 純資産残高 3,412億5千万円

平成29年度に3億4千万円増加しました。
 本市の平成29年度末の純資産残高は3,412億5千万円となり、これは、「貸借対照表」の「純資産」の項目と一致しています。

4 一般会計資金収支計算書

現金が1年間でどのような理由で増減したかを表しています。

平成28年度末 現金預金残高 24億1千万円

本年度現金預金変動高(a)+(b)+(c)+(d)
12億3千万円

- 業務活動収支(a) 41億9千万円
経常的な行政活動の収支
- 投資活動収支(b) △57億7千万円
固定資産の増減などの収支
- 財務活動収支(c) 16億7千万円
地方債(借入金)の収入・返済などによる収支
- その他の収支(d) 11億4千万円
源泉所得税など預り金の増減額

平成29年度末 現金預金残高 36億4千万円

「業務活動収支・投資活動収支・財務活動収支」の合計は9千万円のプラスとなっています。
これにその他の収支(歳計外現金)を加えた本年度末現金預金残高は36億4千万円で、「貸借対照表」の「現金預金」の項目と一致しています。